潮見っ子

学校だより 12月号《第10号》
芦屋市立潮見小学校
令和7年11月28日（金）

◇学校教育目標◇ 学び合い 支え合う 心豊かな子どもの育成
「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」

ほぼ毎日更新中

一人ひとりの違いを生かしながら、共に生きていくために

校長　田淵　雅樹

11月15日（土）から26日（水）まで、「東京2025デフリンピック」が日本で開催されました。耳の聞こえにくい人や聞こえない人が、スポーツを通じて自分の力を発揮する世界的な大会を「デフリンピック」と呼びます。そこでは、選手たちが日々努力を重ね、仲間と協力しながら見事なプレーを披露する姿を、ニュースや新聞などで知ることができました。皆さんは、このスポーツ大会を通して、どんなことを感じたでしょうか。

私は、これまでデフリンピックの存在を知りませんでした。今回、さまざまな競技を見て、今まで知らなかったことを多く学ぶ機会となりました。例えば、チームの作戦を伝える際には「手話言語通訳でコミュニケーション」を取る、陸上競技のスタート時には「ランプの光で合図を送る」、サッカーや柔道の判定では「笛だけでなく旗でも知らせる」などの工夫がされています。これは、耳が聞こえない選手も安心して競技に集中できるようにするための配慮です。こうした工夫によって、すべての選手が自分の力を存分に発揮できる環境が整えられている。みんなに同じものを与える「平等」ではなく、デフリンピックの競技運営から一人ひとりの違いを理解し、その人が力を発揮できるように環境や方法を工夫する「公正」の大切さを感じることができました。

なかよし班活動で1年生が読めない漢字に振り仮名を書くこと、なかよし班清掃で低学年が黒板の上の方を消す際に椅子に乗って掃除すること、授業中に問題を解くために時間を延長することなど、私たちの学校生活の中にも「公正」という考え方を活かして過ごしている場面があるように思います。

私たちの社会は、さまざまな人が「共に」生きています。耳の聞こえ方、目の見え方、体の動かし方、考え方や感じ方――それぞれに違いがあります。その違いを「特別だから」と分けてしまうのではなく、「みんなが力を発揮できるようにするにはどうしたらよいか」と考えることが、誰もが安心して過ごせる学校、地域、社会をつくる第一歩なのだと思います。

昔の人たちも、そのようなメッセージを今の私たちに残してくれています。東本願寺の渉成園の高石垣は、「どんな形の石でも、それぞれの持ち味を生かすことのできる場所に置かれれば、全体の中でその石の力を精一杯発揮できる」ことを教えてくれています。

「友だちの立場に立って考えること」「自分とは違う状況にある人の気持ちを想像すること」そして、「みんなが安心して過ごせるように小さな工夫を積み重ねること」など、私たち一人ひとりがそのような心を持ち続ければ、学校はもっと温かく、楽しく、安心できる場所になるはずです。 まずは、子どもにかかわる大人が率先してそのような心を持ち、学校・家庭・地域が一丸となって「潮見っ子」を育てていければと思います。今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

★学校評価にかかるアンケートのお願い★

11月21日（金）～30（日）に「（学校用）保護者アンケート」、12月1日（月）～14日（日）に「（学級ごと用）保護者アンケート」をミマモルメにて配信しております。次年度の学校運営の資料となりますので、多くの回答をお願いします。